

2024 年度 事業報告書

2024 年 4 月 1 日から

2025 年 3 月 31 日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	ごあいさつ.....	1
事業報告		
1	総 会.....	2
2	役員会.....	2
3	会 員.....	2
4	調査及び研究（定款第5条1号）.....	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）.....	4
6	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）.....	5
7	人材の育成（定款第5条4号）.....	7
8	規格の作成及び普及（定款第5条5号）.....	10
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）.....	12
10	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）.....	13
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）.....	14
	参考：事業区分の説明.....	15

ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会

会長 中畔 邦雄

自動車技術会会員の皆様方及び関係各位におかれましては、日頃より自動車技術会の活動にご支援及びご協力賜り、誠にありがとうございます。2024 年度事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

まず初めに、2024 年度も様々な活動をつつがなく執り行うことができました。これも皆様のお力添えの賜物であり、改めて深くお礼申し上げます。

2024 年度の事業を振り返りますと、学生フォーミュラは Aich Sky Expo に、自動運転チャレンジはお台場にと、開催地を変更致しました。特に学生フォーミュラは、昨今の熱中症リスクをコントロールするために、屋内展示ホールが活用できる Aichi Sky Expo に移転致しましたが、愛知県の関係者の方々、運営スタッフの支援、努力により、大きな問題もなく円滑に開催することができました。改めて皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

人とクルマのテクノロジー展は、お陰様で多くの方が出展を希望されており、横浜では会場をパシフィコ横浜ノースに拡大し、過去最大規模での開催となりました。春季大会もオンライン含めて参加登録者 6931 名と過去最高を記録し、コロナ前の水準を上回ることができました。また秋季大会では、JSAE Innovation Fair を初めて開催、20 社に出展いただきました。

技術会議では、50 部門委員会、1 つの特設委員会が委員会を開催、活動を推進しております。その活動の成果は、オーガナイズドセッションやシンポジウムの開催などを通じ、会員や社会に向け、広く情報発信しています。

規格事業では、日本が積極的に関与した国際規格 TC22 6 件、TC204 5 件が発行に至りました。2024 年 12 月からは、ISO TC22 SC34（パワートレイン）の幹事国となりました。

このように、本会が脈々と築き上げてきた活動は、コロナの影響から復調し、さらなる発展を目指して、皆様のお声も聞きながら引き続き改善に取り組んでいきたいと思いをします。

さらに新たな活動として、10 月に経済産業省、国土交通省より、モビリティ DX プラットフォーム事業を受託致しました。スタートアップ・異業種等の様々なプレイヤーが参画し、企業間連携の促進、ソフトウェア人材確保、新たな価値創造を進める「場」の構築に取り組んでまいります。

大きなチャレンジではありますが、自動車技術会には、設立以来、様々な領域を受け入れてきた、オープンな気質があります。諸先輩方が築いてきたアセット、コンピテンシーを大事にしながら、「人と知をつなぎ モビリティの未来を支える」という、本会のミッションを実現すべく、取り組んでまいります。

従来活動を継続、発展させると共に、新たな領域の活動に取り組み、様々な分野の仲間を増やして、モビリティの未来に向けて活動を加速するために、努力を重ねてまいります。自動車技術会の今後の活動にご期待戴くとともに、今後ともより一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上

1 総 会

2024年5月23日に、パシフィコ横浜（横浜市）において第14回定時総会を開催した。

今回の総会は代議員による事前の書面又は電磁的方法による議決権の行使と、会場に参加している代議員の議決権の行使に基づき議案の決議を行った。大津会長（2022-2023年度）の議長により、次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

書面またはインターネットによる議決権の総数：76個、委任状による議決権行使数2個、
会場での議決権行使数：118個

議案：

- 第1号議案：2023年度決算報告の件
- 第2号議案：2024-2025年度理事選任の件
- 第3号議案：2024-2025年度監事選任の件
- 第4号議案：名誉会員推薦の件
- 第5号議案：役員報酬等の件

報告事項

- (1) 2023年度事業報告の件
- (2) 2024年度事業計画の件
- (3) 2024年度予算の件

2 役員会

理事会4回、担当理事会4回、及び支部担当理事会2回を開催した。

3 会 員

2024年度中の個人会員の入会者数は3,895名、退会者数は4,836名で、2025年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し941名減の42,681名となった。賛助会員の入会数77社、退会数は36社で、2025年3月31日現在の会員数は前年度比41社増の771社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2020 年度	49	44,611	1,306	45,966	677
2021 年度	50	43,432	1,318	44,800	685
2022 年度	48	43,322	1,657	45,027	712
2023 年度	45	41,738	1,839	43,622	730
2024 年度	48	40,563	2,070	42,681	771

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海 外	合 計
2020 年度	190	400	17,408	21,037	5,897	832	202	45,966
2021 年度	194	397	16,900	20,685	5,654	784	186	44,800
2022 年度	246	456	17,123	20,299	5,859	857	187	45,027
2023 年度	260	414	16,769	19,492	5,678	807	202	43,622
2024 年度	258	362	16,352	19,262	5,531	728	188	42,681

4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、本年度9月より「サイバーセキュリティ技術部門委員会」が設立され、全部で50部門委員会と1特設委員会が活動を推進した。

新連携創生センターでは、産学連携事業、他学協会との連携事業を目的とする2委員会が活動を推進した。

部門委員会と新連携創生センター傘下の各委員会の企画により、2024年春季大会においては67件のオーガナイズドセッション（OS）を実施、シンポジウム・講習会については11件、フォーラムについては人とくるまのテクノロジー展名古屋（7月）に3件を実地開催、夏季（7月）と冬季（1月）の2回に分けて14件をオンラインにて開催し、技術交流の促進に大きく貢献した。

国際会議関係では、11月に「SETC2024」をタイで実地開催した。

技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回開催
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を実施行った。3回開催
イノベーション創出委員会	今年度開催無し
合同会議	2024年8月27日 実地（東工大）とオンライン会議のハイブリッド開催、143名出席、基調講演2件、事務局から2024年度事業報告と2025年度事業計画策定を依頼、技術部門貢献賞および学術講演会運営功績感謝状の表彰式は同会場にて実地開催
分野連絡会	今年度開催無し
部門委員会・特設委員会	50部門委員会と1特設委員会で活動、委員会延べ開催数275回、話題提供数399件
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を実施
国際会議	以下の国際会議を準備、開催 ・ SETC2024（2024年11月4日～7日、バンコク タイ）実地開催
OS・フォーラム	OS：2024年春季大会にて67件を企画・実施（セッション全体84件） フォーラム：人とくるまのテクノロジー展 NAGOYA（7月17日～19日）実地開催で3件、夏季（7月24～26日）、冬季（2025年1月24日）の2回にわけて、オンラインにて14件開催（全体19件）
シンポジウム・講習会	シンポジウム：10件開催、講習会：1件開催 シンポジウム・講習会合わせて総動員数1,757名
公開委員会	12委員会が実施
研究調査事業	拠出型2委員会が3テーマで実施

受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会 受託先：日本自動車工業会 車外騒音部門委員会 受託先：環境省	
	振動騒音部門委員会 デザイン部門委員会	技術者育成プログラム（主に学生対象） 第12回二輪デザイン公開講座 第13回中高生対象モビリティデザインコンテスト
その他活動	材料部門委員会	日本金属学会・日本鉄鋼協会と合同シンポジウムで連携
	自動車制御モデル部門委員会 持続可能な自動車社会検討部門委員会	計測自動制御学会と連携 NEDO「運輸部門省エネルギー技術開発」テーマの具体化に関する調査 WG 参加協力
新連携創生センター		
運営委員会	新連携創生センターセンターの運営他について議論した。2回開催	
委員会活動	3委員会にて調査研究活動を推進、委員会延べ開催数13回、話題提供者数18件	

OS：Organized Session

EVTec：International Electric Vehicle Technology Conference

5 研究発表会及び学術講演会等の開催

（定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業）

5月の春季大会は、パシフィコ横浜を実地会場として、オンラインでの聴講を併用した方法で開催し、成功裡に終了した。春季大会の参加登録者数は実地参加者数とオンライン参加数合わせて6,931名で、最多参加者数を記録した。10月の秋季大会は仙台国際センターにて春季大会と同じくハイブリット（実地開催とオンライン聴講を併用）で開催した。秋季大会の参加登録者数は実地参加者数とオンライン参加者数合わせて3,697名だった。また、今年度より秋季大会展示会（JSAE INNOVATION FAIR）を企画、20件の出展社が集まり開催した。

フォーラムは、3件を人とするまのテクノロジー展NAGOYA（7月）の実地会場で、16件を夏季（7月）と冬季（1月）の2回に分けてオンラインで開催した。

人とするまのテクノロジー展は、横浜・名古屋で開催すると共に、それぞれでオンライン展示会を併催した。また、将来のモビリティに必要な技術領域に焦点を充てた“くるまからモビリティへ”の技術展2024 ONLINEを11月に開催した。

春季大会 <2024年5月22日（水）～24日（金） パシフィコ横浜+オンライン>	
学術講演会	実地開催+オンライン聴講 84セッション、講演数387件（内、英語講演99件） 参加登録者数6,309名
Keynote Address	実地開催+オンライン聴講 聴講者数714名
第3回学生ポスターセッション	実地開催 発表件数67件、学生とスポンサーの交流会を実施
フォーラム <人とするまのテクノロジー展NAGOYA：2024年7月17日（水）～19日（金）、Aichi Sky Expo、実地、夏季：2024年7月24日（水）～26日（金）、冬季：2025年1月24日（金） オンライン>	
フォーラム	19件、参加登録者数4,195名

秋季大会 <2024年10月23日（水）～25日（金）仙台国際センター＋オンライン>

学術講演会	実地開催＋オンライン聴講 72 セッション、講演数 334 件（内、英語講演 15 件）、 参加登録者数3,481名
テクニカルレビュー	実地開催＋オンライン聴講 聴講者数 514 名
市民公開特別講座	実地開催＋オンライン聴講 聴講者数 432 名
第 6 回学生ポスター セッション	実地開催 発表件数 33 件、学生とスポンサーの交流会を実施
《初》秋季大会展示会 JSAE INNOVATION FAIR	実地開催 出展社数 20 社

人とくるまのテクノロジー展

- <2024年5月22日（水）～24日（金）パシフィコ横浜（横浜市）>
- <2024年5月15日（水）～6月5日（水）ONLINE Stage1>
- <2024年7月17日（水）～19日（金）Aichi Sky Expo（常滑市）>
- <2024年7月10日（水）～7月31日（水）ONLINE Stage2>

人とくるまの テクノロジー展2024 YOKOHAMA/ ONLINE Stage1	出展社 590 社／1,378 小間（オンライン 601 社） 来場登録者75,972名（オンライン来場登録者89,761名）
人とくるまの テクノロジー展2024 NAGOYA/ONLINE Stage2	出展社 392 社／859 小間（オンライン 405 社） 来場登録者29,852名（オンライン来場登録者34,861名）

“くるまからモビリティへ”の技術展 2024 ONLINE

- <2024年11月11日（月）～11月29日（金）>

“くるまから モビリティへ” の技術展2024 ONLINE	出展社 34 社、来場登録者 9,310 名
--------------------------------------	------------------------

シンポジウム

委員会企画 シンポジウム・講習会	シンポジウム10回、講習会1回を開催、計1,757名参加
---------------------	------------------------------

6 学術誌及び学術図書の刊行（定款第 5 条 3 号、公益目的事業 1・2・3）

本年度は、「2050 年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップの各事業を引き続き実行した。特に、文献・情報検索システムの自技会 ID への統合、全支部報の全バックナンバーについて文献情報検索システム上への統合、ハンドブック HTML 版データの整備、レコメンド機能の検討を実施した。また、出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった 22 名の方に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

資料収集・調査研究に関する学術誌の発行

会誌「自動車技術」	・主に自動車に関わる技術者、研究者に向けた最新の技術情報を毎月特集し、年間 12 号を発刊 ・8 月号は「年鑑号」として前年中の自動車および関連分野の動向や統計データを総括して掲載 ・個人会員、賛助会員、定期購読者に電子書籍形式で配信 ・5 月号、6 月号に若手読者向けの記事として、若手会員と、TEAM MUGEN 一瀬 俊浩氏、小池 智彦氏との「レジェンド企画」動画を掲載
-----------	--

	・9月号より「みんなのモーターサイクル工学講座」の連載を開始 ・会誌アクセス数増を狙い、2024年8月より会誌発行メルマガに会誌紹介動画を掲載
文献情報収集	文献情報検索システム上に、2,501件の文献情報を掲載
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2024年度は、Vol. 14 No. 2～Vol. 15 No. 4として、計11回発行 誌名変更を検討
JASO Standards Viewer	日英両規格を収載したWebシステムJASO Standards Viewerを運用開始 最新JASO規格、TP 1,292件を収載
高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
テストングツール 最前線 2024	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事を冊子版として展示会場で配布、また電子版も配信 会誌発行に合わせて会員に配信
次世代自動車技術 最前線 2024	次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事を冊子版として展示会場で配布、また電子版も配信 会誌発行に合わせて会員に配信
研究発表に関する学術誌の発行	
自動車技術会論文集	年6回発行、201編をJ-STAGEにて公開
International Journal of Automotive Engineering	年4巻発行、13編をJ-STAGEにて公開 ESCIへの収載のための申請を実施
学術講演会予稿集	春季大会分 387件を電子媒体にて発行 秋季大会分 334件を電子媒体にて発行
Summarized Paper	2024年春季・秋季大会での発行分をWEB上で公開
フォーラム資料	19イベントを電子媒体にて発行、合計89文献を発行
人材育成に関する学術図書の発行	
シンポジウム・講習会 テキスト	19イベント分を電子媒体にて発行 合計23文献を発行
九州支部	学自研機関誌（Eternal Car Life 26号）発行
広報関連他の発行	
プレスリリース	24件配信
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信（登録者：約4万2千名）
北海道支部	支部だより1回発行
関東支部	メルマガ48件配信
中部支部	メルマガ31件配信
関西支部	行事案内10回発行
九州支部	メールによる行事案内25件配信

7 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

実地開催の再開とともにオンライン開催によるメリットも活かした催事運営を推進した。特に、新たな技術領域の人材育成の取り組みとして自動運転 AI チャレンジは会場を移転し、EV カートを自動運転に改造をした車両を用い、サーキット走行によるタイムを競う大会を開催、幅広い層の取り込みを図った。また、自動車ソフトウェア領域の新たな取り組みとして、ソフトウェア領域技術マップを作成、そのキャリアとスキルの見える化を推進した。また、学生フォーミュラ日本大会は約 20 年間続いたエコパより、2024 年大会は Aichi Sky Expo へ会場移転し、酷暑の中、チームや出展社は屋内での快適な環境下で大会に参加することができた。また、新たに愛知県や常滑市の協力のもと、開会式や交流会、表彰式を開催することができた。さらに、これまで同様に静岡県にもご協力をいただいている。

自動車工学講座	
基礎講座	第 80 回：2024 年 7 月 8 日（月）～26 日（金）オンライン開催 参加者 198 名
	第 81 回：（モーターサイクル工学）：2024 年 9 月 25 日（水）～26 日（木）静岡文化芸術大学および 9 月 27 日（金）～10 月 4 日（金）オンライン開催 参加者 303 名
	第 82 回：（マツダ・ひろしま産業振興機構）：2024 年 11 月 4 日（月）～12 月 6 日（金）オンライン開催 参加者 368 名
	＜浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター共催＞ 2024 年度自動車工学基礎講座：6 回開催 参加者計 1,045 名
エシカル・エンジニア開発講座	2024 年度第 1 回：2025 年 3 月 6 日（木）～7 日（金）於 イーソル本社 参加者 11 名
自動車サイバーセキュリティ講座	第 8 回：2024 年 8 月 28 日（水）～30 日（水）ハイブリッド開催（ビジョンセンター品川会議室およびオンライン） 参加者 112 名
	専門プログラム：製品サイバーセキュリティ品質向上活動チームの構築・運用のポイント 2024 年 5 月 29 日（水）オンライン開催 参加者 27 名
	OTA Update 基礎 2024 年 12 月 11 日（水）、12 日（木）オンライン開催 参加者 13 名
システムズエンジニアリング育成プログラム	ハンズオンイベント 実践 CAN プロトコル解析 2024 年 12 月 3 日（火）於 AP 市ヶ谷 参加者 11 名
	第 3 回システムズエンジニアリング中級 2023 年 6 月 19 日（水）～20 日（木）オンライン開催 参加者 19 名
	第 4 回システムズエンジニアリング初級 2024 年 7 月 18 日（木）～19 日（金）オンライン開催 参加者 90 名
支部の講演会・見学会等	
北海道支部	特別講演会 1 回（対面+オンラインにて開催）、地方講演会 2 回（対面+オンラインにて開催）、e モータースポーツ北海道支部大 2024 タイムアタック 3 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2024 オンライン走行会 3 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2024 対面走行会 3 回、市民講座 6 回、第 30 回雪氷路セーフティドライビングコンテスト開催
東北支部	見学会 3 回、講演会 4 回（市民公開特別講演会含む）、市民講座 3 回、各セミナー 4 回（全て現地開催）、e モータースポーツ北海道/東北支部合同大会 2024 2 回（オンライン）開催
関東支部	講演会・講習会（オンライン開催を含む）、見学会を合計 25 回開催、15 回目の学生の国際交流活動は、台湾への派遣は 2 名、タイへの派遣は 3 名。エコ 1 チャレンジカップ開催。
中部支部	講演会 2 回、研究発表会 1 回、見学会 11 回、技術講習会 5 回、技術交流会 2

	回、技術者懇談会 3 回、体験型講習会 1 回を開催。
関西支部	見学会 6 回、講演会 1 回、技術者懇談会 1 回、技術者交流会 1 回を開催、学会交流セミナー 1 回を開催（講演会はオンライン、交流会セミナーはハイブリッドで開催）
九州支部	オンライン講演会 2 回（内 1 回はハイブリッド開催、内 1 回はオンライン開催）、講演会 2 回（合同例会/見学会内開催）、見学会 1 回、関西支部との合同例会 1 回、市民講座 4 回、オンライン技術交流会 1 回、技術者情報交換会 1 回
技術者・研究者の認定制度	
第 19 回自動車エンジニアレベル認定	JSAE フェローエンジニア 4 名 JSAE プロフェッショナルエンジニア 2 名 JSAE シニアエンジニア 77 名 JSAE エンジニア 181 名を認定
第 22 回 学生フォーミュラ日本大会 2024 —ものづくり・デザインコンペティション—	
2024 年 9 月 9 日（月）～9 月 14 日（土）に Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場、愛知県常滑市）車検/動的審査/静的プレゼン審査を現地開催。静的デザイン・コストと製造審査は下記の日程でオンライン開催	
・オンライン審査：2024 年 9 月 3 日（火）～6 日（金） 「デザイン審査」、「コストと製造審査」 ・現地会場審査：2024 年 9 月 9 日（月）～14 日（土）@Aichi Sky Expo 「車検」、「動的審査」、「プレゼンテーション審査」、「デザインファイナル」、「コスト監査」	
【参加チーム状況】	
最終参加登録チーム：78 チーム（ICV57・EV21）	
本大会参加チーム：75 チーム（ICV66(海外 17)・EV9(海外 4)）	
車検通過：48 チーム（車検全種目通過）	
エンデュランス走行台数：48 台（内完走:29 台）	
総合成績：1 位 京都工芸繊維大学、2 位 名古屋大学 EV、3 位 神戸大学	
北海道支部	学生フォーミュラ EV 相談会 1 回、学生フォーミュラ合同試走会 2 回、学生フォーミュラ日本大会 2024 報告会
東北支部	ESF 相談会 2 回、模擬車検会 1 回、試走会 4 回、EV 相談会 2 回開催
関東支部	学生運営試走会を 7 回実施（5 月、7 月、8 月×3、10 月、12 月）、EV 模擬車検 1 回（7 月）また、5、6 月に F-SAE チャレンジ講座、ブレーキ講座、SOLIDWORKS 講習会、10 月に CAD 応用解析講座、11 月に SOLIDWORKS 講習会中級編を開催
中部支部	試走会 2 回開催（内 1 回は関西支部合同）
関西支部	試走会 6 回実施、運営委員会 5 回、講習会 4 回実施
九州支部	試走会 5 回（6 月、8 月×2、12 月、3 月）、学生フォーミュラ日本大会 2024（9 月）、リーダーミーティング 11 回（4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月）、ドライバー講習会（8 月）、施設見学会（6 月）、フォーミュラカー展示会（キッズエンジニア九州内にて 10 月）、溶接講座（1 月）、懇親会（1 月）
自動運転 AI チャレンジ 2024	
チャレンジクラスとアドバンストクラス設定し大会を開催。 ・予選競技：2024 年 7 月 2 日（火）～9 月 2 日（月）でオンラインシミュレーションにて開催（145 チーム、397 名のエントリー） ・決勝競技：2024 年 11 月 8 日（土）～9 日（日）に会場をこれまでの東京大学生産技術研究所柏キャンパスからシティサーキット東京ベイに会場移転して開催。16 チーム参加 アドバンストクラス：1 位 TPAC(パナソニックグループ連合チーム)、2 位 iASL (岐阜大学)、3 位 B(oo)ars (筑波大学・東京大学) チャレンジクラス：1 位 Roborovsky (非公開)、2 位 SNE (東京大学)、3 位 TeamS (セック) コミュニティ貢献賞・広報賞 4 件 プレゼンテーション賞 3 件	
キッズエンジニア 2024	
2024 年 8 月 2 日（金）～8 月 3 日（土）にパシフィコ横浜にて開催	

小学生及びその保護者を対象に教室型プログラム 23 件、展示型プログラム 5 件を実施
参加者 3,666 名（児童参加数 1,917 名）
なお 2025 年から中部開催はポートメッセなごやから Aichi Sky Expo（愛知県常滑市セントレア）に
会場移転することを決定

支部の小学生プログラム

北海道支部	市民講座 1 まちなかキャンパス 2024
	市民講座 2 キッズエンジニア in 北海道自動車整備大学校 2024
	市民講座 3 キッズエンジニア in トヨタ自動車北海道 2024
	市民講座 4 くるま未来体験教室
	市民講座 5 キッズエンジニア in デンソー北海道 2024
	市民講座 6 キッズエンジニア in 北見工業大学 2024
東北支部	キッズエンジニア in 東北 2024 仙台（第 9 回）開催
	親子マイコンカーラリー体験科学教室 3 回開催
	小学生向け学生フォーミュラシミュレーター体験科学教室 3 回開催
	親子 3D プリンター体験科学教室 2 回開催
関東支部	「小学生くるま未来体験教室」3 回開催（内 1 回は、北海道支部との共催で 開催）。8 月のキッズエンジニア 2024、11 月のキッズエンジニア in 東北 2024 に出展。「クルマとファンと、ときどき かざぐるま」をキッズエンジニア 2024 及びキッズエンジニア in 東北へ出展。
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド 9 回開催
関西支部	キッズエンジニア 1 回（8 月 作業用ロボットプログラミング教室@神戸海洋 博物館）
九州支部	キッズエンジニア kagoshima in 九州（10 月）

次世代モビリティデザイナー人材育成プログラム「中高生諸君！モビリティデザインに挑戦！」

第 13 回モビリティデ ザインコンテスト	応募 249 作品、6 名に各賞を授与、佳作 21 件
--------------------------	-----------------------------

学生活動企画委員会の活動

学生ポスターセッシ ョン	第 7 回：2024 年 5 月 24 日（水）～26 日（金） 於 パシフィコ横浜 73 件 の発表。スポンサー 11 社、9 件のポスターセッション優秀賞
	第 8 回：2024 年 10 月 23 日（水）～25 日（金） 於 仙台国際センター 33 件の発表。交流会の実施。スポンサー 6 社、5 件のポスターセッション優秀賞

学生安全技術デザインコンペティション

2025 年 3 月 10 日（月）日本地域大会予選開催。5 チームがエントリーし、一次審査を踏まえ 3 チ ームが日本地域大会予選に参加。プレゼンテーション・デモ・質疑を行い東京都市大学が 1 位。

学生自動車研究会（学自研）の活動

北海道支部	各校企業見学会 5 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2024 タイムアタッ ク 3 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2024 オンライン走行会 3 回、e モータースポーツ北海道支部大会 2024 対面走行会 3 回、第 30 回雪氷路セー フティドライビングコンテスト開催
東北支部	支部学自研大会 1 回、運営委員会 4 回、学自研参与会 1 回、学自研講演会 1 回、第 43 回タイヤ研修会 1 回、第 34 回自動車技術独創アイデアコンテスト 1 回を全てオンライン開催、企業見学会 1 回、第 39 自動車整備コンテスト 1 回、第 35 回手作り自動車省燃費競技大会 1 回開催
関東支部	学自研大会 1 回、参与会 1 回、支部学生委員会 11 回、講習会・研修会を 5 回 開催
中部支部	参与会 2 回、学生委員会 5 回、安全講習会 1 回、安全ミーティング 5 回、も のづくりセミナー 1 回、基礎技術交流会 1 回、北陸交流会 1 回、テクニカル セミナー（エンジン講習会）1 回、ICV・EV 比較走行会 1 回、レーステスト 見学会 2 回、学術研究講演会 1 回開催
関西支部	参与会 1 回、運営委員会 4 回、講演会 3 回、研究室見学会 3 回、工場見学会 2 回、卒業研究発表講演会 1 回開催

8 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

規格会議では、国内標準化審議団体として、自動車分野〔自動車標準化委員会（ISO/TC22）、JIS/JASO規格審議委員会〕及びITS分野〔ITS標準化委員会（ISO/TC204）〕における標準化活動を推進した。ISO国際会議はハイブリッド会議が基本となりつつある。また、オンラインのみによる会議が、ハイブリッド会議の補完的に開催されるようになり、参加者も増加傾向である。このような中、専門家の現地派遣を行い、計画通り進捗した。

自動車標準化委員会では、ISO/TC22傘下SC/WG会議に専門家を派遣し、日本発及び積極的に関与した5件の国際規格の発行に貢献した。さらに、今後5カ年の活動計画について、最新状況を踏まえた内容に改訂し、2025年度の活動に向けた「自動車標準化5カ年計画 2025」を策定した。

JIS/JASO規格審議委員会では、JIS制定案1件/改正案2件、JASO制定案3件/改正案3件、テクニカルペーパー案2件を審議し、規格会議で承認した。また、昨年度策定した自動車用部品・材料腐食試験方法（JASO M 609:2024）及びその補足（TP91001:2024）について、5月の春季大会において特別講演会を実施した。

自動車分野の標準化活動に貢献いただいた5名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

ITS標準化委員会では、ISO/TC204総会、各WG会議及びアドバイザーグループ等に専門家が参加し、日本発となる6件の国際規格発行に貢献した。さらに、ISO/TC204におけるこの5年間の標準化活動及びITSを取り巻く主要な国内外動向を整理・分析し「ITS分野の国際標準化 現状分析 2025」として取りまとめ、今後日本として重点を置いて取り組むべき項目や、新たに取り組むべき項目を考察することによって供していく。また、関連省庁や産業界等における情報共有と国際標準化普及促進を目的としたITS国際標準化フォーラムを開催した。

ITS分野の標準化活動に貢献いただいた4名の専門家に、功労者感謝状を贈呈した。

自動運転に関する活動では、自動運転標準化検討会において、JASIC（自動車基準認証国際化研究センター）自動運転センターにおいて自動運転の実装サービスに注目し、これらの基準・標準の状況、課題の共有、連携強化項目の検討を引き続き行っている。

日本自動車工業会等の自動車関連団体において基準・標準連携活動を推進した。

経済産業省 産業標準化事業表彰において、これまでの国際標準化活動の功績が認められ、産業技術環境局長表彰を2名が、奨励賞を1名が受賞した。

自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

ISO	・ TC22/SC/WG 会議
	会議出席： 106会議342名（面着出席216名、オンライン出席126名）
	・ 1 件の新規作業項目提案 -ISO/AWI PAS 21779-2 ペダル踏み間違い時加速抑制装置試験法 第 2 部：対歩行者 ・ 32 件の国際規格案（DIS）回答 ・ 5 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行 -ISO 24605：圧力均等化ポート付きジメチルエーテル（DME）給油コネクタ -ISO 24089 AMD1：ソフトウェア更新 追補 -ISO 13948-2：ディーゼル機関－燃料注入ポンプ及び燃料インゼクタ低圧接続－第 2 部：非ねじ（圧着）接続 -ISO 6727:2021/Amd 1：路上走行車－オートバイとモペット－制御装置、インジケータ及び自動表示装置の記号 追補-ISO/PAS 8800：自動車－安全性と人工知能
	・ 第 25 回 ISO 研修会 基礎編（8 月 20 日） 参加者 448 名 内容：ISO の基礎知識 ・ 第 26 回 ISO 研修会 実践編（1 月 30 日） 参加者 98 名 内容：ISO エキスパート 2 名による講演
JIS	・ 制定1件、改正2件
JASO	・ JIS・JASO 原案作成講習会（6月26日） 参加者8名（5委員会） ・ 制定3件、改正3件、小改正6件、廃止3件、テクニカルペーパー制定2件、廃止7件
委員会	・ 5カ年計画制定・メンテナンス WG を設置し「自動車標準化5カ年計画 2025」を策定 ・ 12部会、60分科会を設置、構成委員数1,988名、開催数349回
受託事業	・ エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））（自動運転システムの安全性に寄与する技術の国際標準化）委託元：野村総合研究所 ・ 令和 6 年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業（二輪自動車及び電動二輪自動車に関する標準化活動）委託元：三菱総合研究所 ・ 2024 年度標準化事業 委託元：日本自動車工業会
表彰	・ 標準化活動功労者感謝状贈呈 5 名 ・ 産業標準化事業表彰：産業技術環境局長表彰 2 名、奨励賞 1 名

ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）

ISO	・ TC204 及び関連国際会議
	会議出席：34 会議 134 名（面着出席 37 名、オンライン出席 97 名）
	・ 1 件の新規作業項目提案 -人間中心の危険予測情報提供サービスの役割モデル ・ 13 件の国際規格案（DIS）回答 ・ 6 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行 -ISO/TR 17783：モビリティインテグレーション－低軌道衛星システムを利用したモビリティサービスの役割と機能モデル -ISO 14823：グラフィックデータ辞書－第 1 部：仕様 -ISO/TS 22741-2：センター路側機器間の DATEX データインタフェース 第 2 部：フィールドデバイスの基本管理 -ISO/TS 15638-26：商用貨物車のテレマティクスアプリケーションのフレームワーク 第 26 部：走行中充電モニタリング -ISO/TR 19560：自動運転車とユーザー間の情報伝達インタフェース -ISO/TS 22726-2：協調/自動走行システムのアプリケーションのための動的情報および地図 DB 仕様 第 2 部：動的データの論理データモデル

委員会	・パンフレット「ITS の標準化 2024」を発行 ・「ITS 分野の国際標準化現状分析 2025」を策定 ・ITS 標準化委員会、技術委員会、ITS 国際標準化戦略タスクフォース、WG14 部会関連、その他の国内会議を 56 回開催、構成委員数 350 名 ・ITS 国際標準化フォーラム（会場 58 名、オンライン 191 名）
受託事業	・エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））（スマートモビリティシステムの高度化に関する国際標準化）委託元：野村総合研究所
表彰	・標準化活動功労者感謝状贈呈 4 名
JIS: Japanese Industrial Standards JASO: Japanese Automobile Standards Organization TC: Technical Committee SC: Sub-Committee WG: Working Group DIS: Draft International Standard	

9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

（定款第 5 条 6 号、公益目的事業 1・2・3）

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2024（2024年6月）を共催
経済産業省	省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業（省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野））：①スマートモビリティシステムの高度化に関する国際標準化・普及基盤構築 ②自動運転システムの安全性に寄与する技術の国際標準化） 戦略的国際標準化加速事業：①二輪自動車及び電動二輪自動車に関する標準化活動 モビリティDXプラットフォーム構築・推進事業 自動運転AIチャレンジ2024（2024年7月～9月、11月）の開催で連携（一部受託） 第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査機関として協力
国土交通省	第28回ESV国際会議（トロント：2026年5月）における第11回学生安全技術デザインコンペティションへ派遣する日本代表チームを選考。2025年3月に国内大会を開催。自動運転基準化研究所（事務局：自動車基準認証国際化研究センター）における国際基準化活動と国際標準化活動の連携
環境省	車外騒音部門委員会が今後の車外騒音規制のあり方に関する国際動向調査（受託事業）を実施
新エネルギー・産業技術総合開発機構	運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査の WG に持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し活動を推進
情報通信技術委員会 (TTC)	通信セキュリティの標準化で連携
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を推進
日本機械学会	日本機械学会が幹事となり、第35回内燃機関シンポジウム（2024年12月）を共催
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師及び JASO 原案レビューを依頼

日本自動車工業会	海外における PM 研究動向の最新研究調査（受託事業）を実施 安全・環境標準化部会、自動運転部会、コネクテッド部会との連携活動 自動運転 AI チャレンジ2024（2024年7月～9月、11月）の開催で連携（後援）
日本自動車研究所	ISO/TC22（自動車）、TC204（ITS）における国際標準化連携活動
自動車基準認証国際化研究センター（JASIC）	自動車イノベーション技術標準化研究所 自動運転センターにおいて、自動運転技術に関する基準（国連法規）、標準（国際規格）連携活動を推進
日本金属学会	材料部門委員会の活動で連携
日本鉄鋼協会	材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進
日本塑性加工学会	材料部門委員会の活動で連携
計測自動制御学会	自動車制御とモデル研究部門委員会の活動で連携
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画。FISITA WORLD MOBILITY SUMMIT（ミシガン：11月）の開催を支援。
APAC	APAC-22韓国大会（2024年11月）の開催に協力
JASPAR	車の電子技術に関する標準化で連携
SAE International	
国際会議	国際会議共催の協力覚書のもと SETC2024（タイ・バンコク／本会主担当／2024年11月）を開催
英国機械技術者協会（I Mech E）	MOU に基づき友好的協力関係構築の活動を継続
中国汽車工程学会（China SAE）	国際会議等で連携
韓国自動車工学会（Korean SAE）	
タイ自動車技術会（SAE Thailand）	
アジアなど海外に係わる活動	
英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
“くるまからモビリティへ”の技術展2024 ONLINE	従来の自動車業界の枠組みにとらわれず、将来のモビリティに必要な技術・人材を取り込む活動として「“くるまからモビリティへ”の技術展2024 ONLINE」を開催（2024年11月11日-11月29日）し、人工知能学会・電気学会・電子情報通信学会、土木学会、モビリティサービス協会と講演企画で協力
講座に係る活動	
自動車サイバーセキュリティ講座	日本自動車工業会、JASPAR、J-Auto-ISAC、情報通信研究機構からの講師協力をはじめ、経済産業省、国土交通省、情報処理推進機構と連携して開催
システムズエンジニアリング講座	初級（2024年6月）、中級（2024年7月）の開催にあたり慶應義塾大学大学院SDM 研究科と共催。

ESV：International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles
FISITA：International Federation of Automotive Engineering Societies
APAC：Asia Pacific Automotive Engineering Conference
SETC：Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference

10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 5 条 7 号、公益目的事業 2・3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第74回自動車技術会賞	学術貢献賞0件、技術貢献賞0件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞1件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与
-------------	--

技術教育賞	2件に授与
技術部門貢献賞	49件に授与
自動車技術会フェロー	18名に称号を授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった5名に感謝状を贈呈
ITS 標準化活動功労感謝状	ITS 標準化活動に顕著な貢献があった4名に感謝状を贈呈
編集・出版功績感謝状	編集委員会委員としての活動に多大な功績があった方、編集会議に係わる著作物の出版に多大な功績があった22名に感謝状を贈呈
学術講演会 優秀講演発表賞	春季大会講演から11件、秋季大会講演から7件に授与
学術講演会運営功績 感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった2名に感謝状を贈呈
キッズエンジニア運営功 績感謝状	キッズエンジニアの活動に対して顕著な貢献があった1名に贈呈。
学生フォーミュラ大会 運営功績感謝状	学生フォーミュラ大会の活動に対して顕著な貢献があった者に贈呈。本年度は該当者なし。
学生対象の業績表彰	
大学院研究奨励賞	159名の大学院生に授与
学自研功労賞	12名の学生に授与
学生ポスターセッション 優秀ポスターセッション 賞	第7回（2024年春季大会）9名に授与 第8回（2024年秋季大会）5名に授与

11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

公益社団法人対応業務	
内閣府への事業報告 ・決算書の提出	定時総会終了後、事業報告・決算書を内閣府に対して提出 (電子申請)
寄附金	7名 総額6万6千円
代議員会・委員会・だいじん会	
代議員会	第1回代議員会（2025年1月31日）
運営企画会議	・2024 年春季大会 各催事の開催報告 ・2024 年秋季大会 各催事の開催報告
	・規則、処理基準の改定について確認、承認 ・入会サポートについて確認、承認 ・2025 年春季大会 Keynote Address の企画を検討
総務委員会	・第4回若手技術者交流会の企画、実施（2024年5月24日）参加者36名 ・第5回若手・中堅技術者交流会の企画、実施（2024年10月25日）参加者43名
女性技術者の会推進 委員会	・自動車業界ウェルビーイングラボ by 女性技術者ネットワーキングカフェ in 春季大会の企画、実施（2024年5月23日）参加者76名 ・自動車業界ウェルビーイングラボ by 女性技術者ネットワーキングカフェ in 秋季大会の企画、実施（2024年10月24日）参加者44名
広報	・プレスリリースを24件配信 ・学生フォーミュラシミュレータを人とするまのテクノロジー展、キッズエ ンジンニア、Japan Mobility Show にて展示
だいじん会	2024年11月22日（金）にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員16名が参加
規則制定・改定	
改定	改定なし
会員増強	
北海道支部	支部活動を PR するために各団体、企業に協力を要請。各校独自イベントの

	企業見学会を開催し、学生会員の入会を促進。e モータースポーツ北海道支部大会等、新しいスタイルを実施
東北支部	本部入会キャンペーンと連動させ正会員並びに学生会員の入会を促進
関東支部	入会サポート利用者実績を関東支部理事宛に配信するとともに、各理事の所属企業・大学へ入会促進の協力を要請。
中部支部	技術講習会および体験型講習会の参加費を会員は無料とした。本部入会キャンペーンと連動した入会キャンペーン利用者限定の優先参加枠を実施。
関西支部	2026年度4月1日までの会員数目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会を開催し、担当理事を介して各機関へ入会促進の協力を要請するとともに、特に若手技術者への入会・参加を促進する目的で、会員・非会員を含めた若手技術者の意識調査を実施
九州支部	会の魅力向上と会員へのサービスの充実を図るため、若手・中堅技術者交流会を開催、本部入会キャンペーン動画を支部理事へ配信し、勧誘協力を要請、支部 HP の魅力向上改善
ウェブサイトを活用した会員サービス	
新規システム構築	SSO 関連システム
システム・データ更新	SSO 関連システム、レコメンド機能、ハンドブック HTML ビューア、新ウェブサイト用 CMS、学生フォーミュラ支援システム、Paper Entry System、キッズエンジニアエントリースystem、アンケートシステム（クエスタント）、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、中部支部イベント受付システム、委員情報システム、会員情報システム、文献・情報検索システム、海外決済システム、e-hon システム、イベント参加受付システム
支部総会・役員会	
北海道支部	支部総会 1 回（対面+オンラインにて開催）、支部理事会2回（対面+オンラインにて開催）
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回開催
関東支部	支部総会1回（ハイブリッド開催）、理事会3回（オンライン会議、内、顧問同席2回）、事業担当理事会31回開催（ハイブリッド開催、オンライン開催）
中部支部	支部総会1回、春季合同役員会1回、夏季合同役員会1回、秋季合同役員会1回、新年合同役員会1回、担当幹事会4回、6社会10回、各事業別企画委員会154回、WG 打ち合わせ4回、引継ぎ会1回開催
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回と編集委員会4回を開催
九州支部	支部総会1回（ハイブリッド開催）、理事会2回（ハイブリッド開催）、常任理事会4回（ハイブリッド開催）

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl。等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAE 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業・表彰事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業